

企業経営理論

令和4年度 中小企業診断士1次試験

本試験 第2問

- エ プロダクト・ポートフォリオ・マトリックスの縦軸は、当該企業の各事業（戦略事業単位（SBU））の成長率で構成される。（×）
- オ プロダクト・ポートフォリオ・マトリックスの横軸は、各事業（戦略事業単位（SBU））が属する業界の集中度を示すエントロピー指数で構成される。（×）

本試験 第4問

次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。
消費財を生産・販売するX業界における市場シェア（占有率）は、以下のとおりである。

- A社 45 %
B社 30 %
C社 15 %
D社 10 %

なお、B社はA社と比較して市場シェアでは劣るものの、製品技術の面では、X業界でA社と対抗できるだけの経営資源を保有している。

（設問1）

X業界におけるB社の相対市場シェアとして、最も適切なものはどれか。なお、小数点第3位を四捨五入とする。

- ア 0.30
イ 0.33
ウ 0.67
エ 1.50
オ 2.00

本試験 第5問

- ア TOBとは、買収コストを充足するために、買収する企業の資産や買収後のキャッシュフローを担保として借入金を調達し、企業買収を行う手法である。（×）

本試験 第7問

- ア 4Cモデルは、4つの要素の中で自社の特徴を最も発揮できる要素を発見し、それを強化するためのものである。（×）

本試験 第7問

- イ 4Cモデルは、家族、企業の所有者、経営者など複数の属性を持つ構成員から成り立つファミリービジネスの複雑な利害関係を解決するためのものである。（×）

本試験 第7問

- ウ 4Cモデルは、競争優位の確立とファミリー固有のビジョンや目標を両立させるためのものである。（×）

本試験 第12問

次の文章の空欄に入る記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。
ISO（国際標準化機構）は、企業の社会的責任（CSR）に関する国際規格であるISO26000を2010年に発行した。ISO26000は、。

- オ その特性から、株式会社に限って適用される（×）

2022年合格目標 TAC教材

1次完成答練② 第3問

- ア プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントは、事業を市場成長率と相対的市場占有率の2軸から分析するものであり、市場成長率によって資金需要が、相対的市場占有率によって資金創出力がそれぞれ変わることになる。（○）

1次養成答練 第6問

- ウ 相対的市場占有率は、「自社シェア÷自社を除く競合のシェア合計」で求められ、相対的市場占有率が高いことは、競合他社との比較において多くの売上を獲得していることを示している。（×）

1次養成答練 第7問

- ウ LBOとは、買収側の企業が被買収側の企業の資産や収益力を担保にして、資金調達を行い、この資金で相手を買収するものである。（○）

1次公開模試 第13問

- ウ 4Cモデルでは、好業績を長く維持するファミリービジネスは、継続性（continuity）、コミュニティ（community）、コネクション（connection）、コマンド（command）の4つのCの組み合わせから経営が成り立っているとし、いずれかに偏らないようにすることの重要性を指摘している。（○）

1次公開模試 第13問

- ア ファミリービジネスを分析する基本的なモデルであるスリー・サークル・モデルは、ファミリービジネスに関わる人々が、ファミリー、オーナーシップ、ビジネスという重なり合う3つのサブシステムによるセクターのいずれかに位置付けられて問題解決に関わるかを捉えるものである。（○）

1次公開模試 第13問

- イ パラレル・プランニング・プロセスモデル（PPPモデル）は、ファミリービジネスが創業以来保持しているビジョンや夢と、経済合理性やビジネスの論理がトレードオフとなる場合も多いことを踏まえ、ファミリープランニングと戦略プランニングを並行して行うことである。（○）

1次完成答練② 第9問

- オ ISO26000は、企業を対象とした社会的責任に関する国際規格として2010年11月に発行されたものである。（×）

本試験 第23問 イ 使用者は、労働時間が6時間を超える場合においては少なくとも45分、8時間を超える場合においては少なくとも1時間の休憩時間を労働時間の途中に与えなければならないと規定されている。(○)		1次養成答練 第20問 ウ 使用者は、1日の労働時間が8時間の場合には、労働時間の途中に1時間以上の休憩を与えなければならない。(×)
本試験 第24問 ウ 常時10人以上の労働者を使用する使用者が就業規則を作成して届出をする際には、当該事業場に労働組合がない場合は、当該事業場の労働者の過半数を代表する者が当該就業規則の内容に同意した旨を記載した書面を添付しなければならない。(×)		1次養成答練 第19問 エ 使用者は労働時間が6時間を超える場合においては少なくとも45分、8時間を超える場合においては少なくとも1時間の休憩時間を労働時間の途中に与えなければならない。また、休憩時間は原則として、一斉に与えなければならない、さらに、自由に利用させなければならない。(○)
本試験 第29問（設問1） オ プレステージ性が高いラグジュアリー・ブランドでは、価格が上がることによって、より高い価値を感じる消費者もいる。この理由は、プロスペクト理論によって説明することができる。(×)		1次上級答練 第19問 ウ 使用者は、就業規則の作成または変更について、当該事業場に、労働者の過半数で組織する労働組合がある場合においてはその労働組合の同意を得なければならない。(×) 1次公開模試 第23問 エ 使用者は、就業規則の作成又は変更について、当該事業場に、労働者の過半数で組織する労働組合がない場合においては労働者の過半数を代表する者の同意を得なければならない。(×)
本試験 第29問（設問2） オ 本体と消耗品を組み合わせて使用する製品で、本体を低価格で、消耗品を高価格で販売することをキャプティブ・プライシングと呼ぶ。本体を低価格で販売することによる赤字を回収するためとはいえ、消耗品の価格を高く設定しすぎることは通常避ける必要がある。(○)		1次公開模試 第34問 イ プロスペクト理論では、個々の顧客が抱く期待価格である「参照点」と比較して、実際の価格が高かった場合の価値評価と低かった場合の価値評価をすると、低かった場合の価値評価のほうが小さくなるとされる。(○) エ 価格の意味には、「犠牲」「品質のパロメーター」「プレステージ性」といったものがあり、「犠牲」「品質のパロメーター」を踏まえると価格は安いほうが好まれ、「プレステージ性」を踏まえると価格は高いほうが好まれる。(×)
本試験 第31問 イ リレーションシップ・マーケティングにおいて優良顧客を識別するために用いられる方法の1つにRFM分析があり、それぞれの顧客が定価で購入している程度(Regularity)、購買頻度(Frequency)、支払っている金額の程度(Monetary)が分析される。(×)		1次養成答練 第27問 ウ キャプティブ価格とは、製品本体と消耗品で構成される製品において、本体製品の価格は高めだが、その使用に必要な消耗品の価格を安くすることで、消費者が長期間使用するほど費用対効果が高くなる点を訴求する価格設定戦略である。(×)
本試験 第37問 エ サービス品質の計測尺度の1つであるSERVQUALは有形性、信頼性、反応性、確実性、共感性の5つの変数で構成され、それぞれにおいて、サービス提供における事前と事後の差を計算し、サービス品質の評価が行われる。(○)		1次養成答練 第30問 ア RFM分析においては、最終購買日、購買頻度、購買金額の3つの視点でポイント付けして顧客をランク分けする。そして、ランクの下位層に優遇サービスを提供して上位層に引き上げていく。(×)
		1次完成答練① 第26問 ア サービス品質の評価方法である「SERVQUAL（サーブコール）」は、信頼性、反応性、確実性、有形性、共感性の5つの面で評価するものである。(○)